

これからの教育環境を考えるワークショップ（第5回）  
 「生野区西部地域教育特区構想」に関する質疑応答要旨

<再編の具体的な考え方、進め方>

1	<p>今回の統廃合問題は、単なる数合わせではなく、地域を超えての取組みとの説明であったが、数合わせの問題は避けて通れないのではないかと個人的には考えている。もう少し詳しく説明をお願いしたい。</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>小規模な学校が教育内容の面で不十分ということではないですが、将来にわたって、子どもの成長段階を追っていくときに、やはり、小学校の段階で学年1クラスしかなく、クラス替えができないままその状態が中学校卒業までずっと続くという環境は変えるべきだと考えています。この教育特区構想は、地域も入っていただいて、幼稚園・保育園・保育所の時期から義務教育を終えるまでは、子どもたちが生野区内で充実した教育環境の中で成長できるよう環境を整えることを考えていくためのものです。また、学校配置の再編は中学校区を基本としていますが、場合によっては中学校同士の再編も含めて考えていただくことになるかと思えます。</p> <p>小学校・中学校とが連携して小中一貫した教育を実施するためには、学校の先生が今よりもさらにたくさん必要となります。こういった教員配置の問題のほか、カリキュラムや学校の設備を整えていくことについても教育委員会事務局と協議しています。大阪市が持っている教育資源を、「特区構想」という形で生野区に投入していくというのがこの内容になります。7月9日の区政会議において、教育長も、生野区での取組みを大阪市内のひとつのモデル事例にしたいとの考えで、区役所と一緒に特区構想を進めていきますと申し上げています。</p>
2	<p>中学校区を基本とした再編というのは、どういうことか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>これまで教育環境の再編については、A・Bブロックごとに集まっていたいただき意見交換を行ってききましたが、今後は、現在の中学校区をひとつの再編単位として検討することとします。</p> <p>具体的には、Bブロックであれば、生野中学校と田島中学校のそれぞれの校区ごとの小・中学校での再編を検討することになります。</p>
3	<p>学年1クラスではなく複数クラスを持つようなことをめざしておられるのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>将来にわたって学年複数クラスを確保することを基本的に考えていきます。</p>
4	<p>これまでは、最低でも学年複数クラスの規模の学校をめざしたいという方向で進んでいたはずだが、中学校区単位で考えていくとなると、現状の中学校でも、すでに学年1クラスの学校もあり、現状と何ら変わらないように思える。また、中学校区ごとに再編のタイミングは異なるのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>中学校についても、学年複数クラスの維持が出来ないなど将来の持続可能な規模に課題が見込まれる場合は、中学校同士の再編も考えていきます。再編のタイミングについては、新たに中学校同士を再編する場合、その対象となる小中学校の統合の時期は一緒になります。</p> <p>ただし、西部地域のすべての学校が同じタイミングで新学校をスタートさせるということではなく、これから話し合いを進めていく中で、まとめていく時期とか、統合内容によっては時間がかかることになります。</p>

これからの教育環境を考えるワークショップ（第5回）  
 「生野区西部地域教育特区構想」に関する質疑応答要旨

5	<p>中学校単位で再編を進めるということは、学年2クラス以上の小学校がほとんどない現状を踏まえると、まずは全ての小学校を精査し、その上で、中学校においても少人数の学校は精査するという形で捉えていいのか？</p> <p>【回答】</p> <p>教育特区構想では、従来からの考え方であった「規模の小さな学校から順次統廃合を実施する」ということではなく、すべての対象地域で子ども達にとってよりよい教育環境を安定的に維持していけるよう、新しく学校を再構築していくことをめざしています。</p> <p>学年に1クラスしかない学校がそのまま存続することはあり得ないと思っておりますが、これまでとは統廃合に向けた考え方が全く違うものになるとご理解いただきたいと思います。例えば子どもが300人いる学校はなくさないとかいう単に人数だけを見て統廃合を行うということではなく、子ども達にとってよりよい教育環境を安定的に維持していけるよう、新しい学校を再構築するという事です。</p>
6	<p>中学校区単位ということは、具体的にAブロックであれば、北鶴橋・御幸森・鶴橋・東桃谷・勝山小学校の5校があり、勝山・鶴橋と2つの中学校があるが、小中一貫ということなら、2つの中学校はそのまま存続して、そこへそれぞれの小学校が統合されることになるのか？</p> <p>【回答】</p> <p>大阪市の教育委員会では、小学校の適正配置、統廃合について児童数における基準はありますが、中学校についてはそのような明確な基準がないのが現状です。しかしながら、学年に1クラスしかない中学校にはさまざまな課題があることも認識しています。</p> <p>基本的には中学校区単位で、これからいろいろお話ししながら検討していきませんが、今回、中学校についても議論をさせていただきたいということで説明していますので、いただいたご意見の結果によっては、現在の中学校区よりも、より幅広い大きなくくりでの再構築もあり得るかと思えます。</p> <p>なお、御幸森小学校については、これまでからAブロックとして再編対象としていましたが、今後は、中川小学校も新たに対象として含めたうえで大池中学校区単位で皆さんのご意見を伺っていくこととします。</p> <p>「小中一貫した教育」とは、小学校から中学校まで一貫した教育プログラム（学習指導や生徒指導等）により、小学校と中学校がより連携を深める形の教育ということです。なお、小中一貫教育には、市立いまみや小中一貫校のように、小学校と中学校が同じ場所にあり1～9年生が同じ学校で学ぶいわゆる「施設一体型」や、小学校と中学校が別の場所にある「隣接型」「連携型」といったものがあります。</p>
7	<p>御幸森小学校は、大池中学校下で再編されるということで考えていいのか。また、大池中学校が鶴橋中学校と再編になるという可能性もあるのか？</p> <p>【回答】</p> <p>御幸森小学校については、Aブロックでの再編対象としていましたが、今後は、中川小学校とともに大池中学校区を単位として、皆さんのご意見を伺っていくこととします。</p> <p>決して決まったことではありませんが、基本的には、この2つの小学校を統合することにより、将来的にかなり先の時期まで学年2クラス以上が維持できる見込みであり、まずは、この2つの小学校でいろいろと意見交換していただくことになると考えています。</p>

これからの教育環境を考えるワークショップ（第5回）

「生野区西部地域教育特区構想」に関する質疑応答要旨

8	<p>以前参加したときに、「区役所が主体的に進めるのだから、きちんと学校と地域や町会とかのことも含めて検討する」と言われたかと思うのですが、中学校区を基本にすると、現在、同じ地域から別々の小学校・中学校へ通学している地域では、そのまま別々の学校に通うことになると思うが、どうなるのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>同じ小学校に通学する子どもが、卒業して別々の中学校に進学するような状態は解消していきたいと考えています。そのためにも、中学校区単位で保護者や住民の皆さんとより良い方法を検討していくことが必要と考えています。</p>
<p>&lt;教育内容について&gt;</p>	
9	<p>教育特区構想により、教育体制が充実した学校とそうでない学校が混在することになるのか、区内の全学校において教育体制が充実するのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>予算には限りがありますので、生野区内の全ての学校を対象に一度に実施するのは非常に困難ですが、この教育特区構想では、子どもの数が急激に減少している区内西部地域の全ての学校に小中一貫した教育プログラムを導入していくこととしています。</p> <p>何ができるか予算的な面でも教育委員会事務局で検討を進めていますが、まずは、西部地域をモデルケースにして今後全地域に広げていこうという考え方で取り組んでいます。</p> <p>なお、個別の案件によっては、生野区内の全ての中学校・小学校に関わる内容もあります。例えば、中学校給食では、小中一貫の取組みの中で、中学校での自校調理のほか、小学校で調理したものを中学校へ配送する親子給食や、区内のどこかの施設で調理したものを各学校へ配送するなどさまざまな方式を検討するということが考えられますが、検討するにあたっては、生野区全体で意見を聞いていくことも必要かもしれません。</p> <p>いずれにしても、子どもの数が減っていた西部地域を中心にまず進めていくという説明をしています。</p>
10	<p>教育特区構想では、学校単位で特区による教育の充実を行っていくのか、生野区全体として変えるのかどちらなのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>制度・仕組み・考え方など大きな枠組みを学校によって全然違うものにするというのは、現実的に困難です。新たな学校ごとに保護者や住民の皆さん、学校、行政が参画した協議の場を設け、その中で新しい学校づくりについて話し合いを行いますので、個々の地域・学校ごとで取組み方や学校の特色が異なるところはあり得るかと思います。</p> <p>特色ある教育内容は、教育特区構想の2に示しているメニューが例となります。</p>
11	<p>小中一貫した教育の充実ということで、例えば、小学校の教員免許と中学校の教員免許、高校の教員免許といろいろ現状は分かれているが、中学校の教員免許しか持っていない先生が小学校に行って教えられるのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>小学校の先生と連携し、中学校の先生が専門的なことを教えるという「チームティーチング」により、小学校と中学校が連携して専門的な授業を小学校で行うといった取組も進められています。</p>

これからの教育環境を考えるワークショップ（第5回）  
 「生野区西部地域教育特区構想」に関する質疑応答要旨

1 2	<p>「教員の増員」とあるが、これは小中一貫した教育ということで、中学校の先生が小学校に教えに行くなど教育を充実するためには先生の増員が必要になるということか？</p> <p>【回 答】</p> <p>そのとおりです。</p> <p>中学校は教科担任制ですが、生徒数が減って学級数が少なくなると、配置される教員の数に限りがあるため、技術家庭の科目などはそれぞれの学校だけでは教員の確保ができず、一人の先生が2つの中学校を行き来するような事態もあります。そのような状況で中学校の先生がさらに小学校まで行くことになれば、中学校の負担はますます大きくなってしまいます。また小学校の場合は、同じ学年に複数の教員がいないことで、教育内容について互いに相談・連携できないといった状況もあります。生野区では、小中一貫した教育の導入に合わせ、このような課題を解消していきたいと考えています。</p>
1 3	<p>学校見学した奈良市立富雄第三小中学校では、国の特区制度や奈良市独自で学級定員を減らしており、すごく良いと思った。</p> <p>今回、教育特区構想ときいて、1クラスあたりの児童生徒数の定員がもしかしたら生野区でも変わるのかなと期待している。</p> <p>【回 答】</p> <p>学級定員については、国の法令や府の基準を踏まえて市内一律に決定しており、生野区だけ定員を変更するというのは困難です。しかし、定員自体を変更することができなくても、習熟度別少人数授業の充実などで、子どもたちにきめ細やかな指導を行うための環境は実質的に整えることができると考えています。</p>
<p>&lt; 地域との関係について &gt;</p>	
1 4	<p>統廃合するのは学校だけということだが、連合振興町会の統廃合は全くないということか？</p> <p>【回 答】</p> <p>連合振興町会の構成は行政が主体的に取り扱う事案ではありません。地域どうしの話し合いの結果、住民の総意で町会を統合される（あるいは分離される）ということはあるかもしれませんが、区役所あるいは教育委員会から、学校の統合を契機として該当する町会どうしが一緒になるようにお勧めするようなことは、一切ありません。</p>
1 5	<p>教育特区構想の説明会が9月に予定されているが、本日の配布資料「生野区西部地域教育特区構想」がそのまま出されるのか？また、別の文書が出されるのか？</p> <p>【回 答】</p> <p>9月1日、4日、7日に開催する説明会は、たくさんの方に教育特区構想を説明したいという目的で「生野区西部地域教育特区構想」の中身を説明する場になりますので、補足するための資料は増やしますが、本日の資料を基本に説明します。</p>

これからの教育環境を考えるワークショップ（第5回）  
 「生野区西部地域教育特区構想」に関する質疑応答要旨

＜今後のスケジュール＞	
16	<p>「学校再編整備計画（案）」は、いつ頃に取りまとめようと思っているのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>今年11月に実施される市長選後に改めて市長に説明し確認したうえで、取組をさらに具体化させていくこととなります。早ければ、年明けには皆さんに提示できるのではないかと思います。</p> <p>なお、期限が決まっているというものではありませんが、それまでの間には、ブロック単位程度の規模での説明会や小グループへの出前講座などの場を設けるなどして丁寧にご説明していきます。</p>
17	<p>未就学の子の親として、統合が何年後かわからないまま進められてはどう対応したらいいのかよくわからない。現段階で何年後には結果を出すなどのスケジュールをどう考えているのか？</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>今までの小学校の統廃合の実例として、新しい学校に必要な施設等を整備するのに一般的に2～3年かかっています。「生野区小・中学校教育環境再編方針」で最短の場合のモデルスケジュールをお示ししているのでひとつの参考としていただければと思います。</p> <p>保護者や住民の皆さんと一緒に考えていただき具体的な再編内容が決まれば、移行するまでの間に、さらに検討や課題解決に向けて保護者や住民の皆さんと一緒に取組を進めていくことになると考えております。</p>
18	<p>前回の市立いまみや小中一貫校の話聞き、各校の行事のすり合わせや授業のカリキュラムなど、沢山のことを調整する時間が短くて大変そうだったのでは、計画（案）が出された後、現場の先生方とか地域で移行に向けての話合いやすり合わせなどを行う準備期間を十分に設けて欲しい。</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>再編整備計画（案）を早く提示し、子どもたちには新しい環境に慣れてもらうための時間、学校には準備の期間、地域の方には一緒に考えていただける時間を出来るだけ長く作りたいと考えております。</p>
＜意見・要望＞	
19	<p>小中一貫というのは、「良い事ですよ」とか「子どもにはメリットばかりですよ」だけでなく、デメリットがあるということも含めて進めるべきである。現状では先生達の負担も大きいと聞いているので、小中一貫した教育という方針は学校現場の教員の声も確認しながら進めていくべきと考える。</p> <p>-----</p> <p>【回答】</p> <p>基本的に先生方とお話をしていくのは、これからということになります。</p> <p>今後、小中一貫教育を経験された先生などのお話もお聞きしたいと思っていますし、現場の先生の声も聞きながら、教育特区構想を具体化させていきたいと考えています。</p>

これからの教育環境を考えるワークショップ（第5回）  
「生野区西部地域教育特区構想」に関する質疑応答要旨

20	<p>生野区全体の少子化が急速すぎて、学校環境だけの問題ではなく、空き家対策や交通、防災・防犯についても今話をしないと、これから先にも同じ話（学校の統廃合）を2回、3回と繰り返すことになり、保護者も地域も非常につらい思いをすることになりかねない。</p> <p>まち全体のことも考えて、子どもを増やすつもりで「特区」を打ち上げていただき、前向きに、子どもがどんどん生野区にやってくるようなそういうイメージづくりもお願いしたい。</p> <hr/> <p><b>【回答】</b></p> <p>教育特区という形で学校環境を整えていくことで、多くの方がまた生野区に住みたいと思うことにつながっていくのではないかと考えています。</p> <p>また、教育環境の整備と併せて住環境の整備が進まなければ、魅力あるまちづくりにはつながりませんので、これからいろいろな機会でも、区役所ができることは区役所が進め、局にも整備等をどんどん進めてもらうように働きかけます。</p> <p>生野区内の学校に行きたいと思ってもらえるような仕掛けをいろいろと保護者や住民の皆さんと一緒に検討していきたいと思えます。</p>
----	--